

平成19年度 水稻関係生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度水稻関係生育調節剤試験成績検討会は、平成19年12月3日、植調会館会議室(東京都台東区)において開催された。

本年は、健苗育成等を目的としたもの7剤(作用性2点、適用性23点)、

登熟向上を目的としたもの1剤(適用性2点)、倒伏軽減を目的としたもの3剤(適用性8点)について試験成績の報告および検討が行われた。

薬剤別の判定結果は、次表の通りである。

平成19年度 水稻関係生育調節剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧

〈健苗育成等〉

No.	薬剤名 有効成分及び含有率 〔委託会社名〕	試験目的	判定	使用基準	継続の内容
1	KUM-071 水和剤 トリコデルマ アトロビリテ (SKT-1): 1×10^8 cfu/g, プロヘキサシオンカルシウム塩: 2.0% 〔クアアイ化学〕	〔適用性〕 育苗期の苗の徒長防止 効果および葉害の確認	継		効果の確認
2	RIC-1 液剤 海藻ホモジネート 〔ロイヤル・インターストリス〕	〔作用性〕 苗質への影響の確認	-		(作用性)
3	SF-0702 粉剤 ヒドロキシイソキサゾール: 4.0%, メタラキシルM: 0.25% 〔三共アグロ〕	〔適用性〕 根の生育促進, 移植時の 発根および活着促進	実・継	・使用基準 根部の生育促進 処理時期: 播種時 使用量: 6~8g/育苗箱 処理方法: 土壌混和	年次変動による効果の確認 移植後の発根促進効果 の確認
4	SF-0703 液剤 ヒドロキシイソキサゾール: 30.0%, メタラキシルM: 2.0% 〔三共アグロ〕	〔適用性〕 根の生育促進, 移植時の 発根および活着促進	実・継	・使用基準 根部の生育促進および移植 後の活着促進 処理時期: 播種時または 発芽後から緑化期 使用量: 500~1000倍液 500ml/育苗箱 処理方法: 土壌灌注 または 処理時期: 播種時 使用量: 1000倍液 1000ml/育苗箱 処理方法: 土壌灌注	年次変動による効果の確認

〈健苗育成等〉 つづき

No.	薬 剤 名 有効成分及び含有率 〔委託会社名〕	試験目的	判定	使用基準	継続の内容
5	SH-0602 液剤 ヒドロキシイソキサゾール:16.5% (水溶性リン酸:18%,水溶性カリ:20%) 〔三共アグロ〕	[作用性] 根の生育促進, 移植時の発根および活着促進 [適用性] 根の生育促進, 移植時の発根および活着促進	— 継		(作用性) 年次変動による効果の確認 処理時期・薬量と効果について
6	T-2000S 粒剤 シュート'モナス フルオレッセンス (FPT-9601):10 ⁷ cfu/g 〔多木化学〕	[適用性] 苗伸長抑制効果および薬害の確認	継		効果の発現条件の明確化
7	NGR-073 粒剤 イソプロチオラン:12.0% 新規化合物:0.75% 〔日本農薬〕	[適用性] 根の伸長および発根促進効果の確認	継		年次変動による効果の確認 最適発現条件について

〈倒伏軽減〉

No.	薬 剤 名 有効成分及び含有率 〔委託会社名〕	試験目的	判定	使用基準	継続の内容
1	SSDF18 粒剤 ウニコザールP:0.004% (N-P-K:18-12-12) 〔住友化学〕	[適用性] 倒伏軽減効果および薬害の検討	継		年次変動による効果の確認
2	SSDF20W 粒剤 ウニコザールP:0.003% (N-P-K:20-12-12) 〔住友化学〕	[適用性] 倒伏軽減効果および薬害の検討	継		年次変動による効果の確認
3	SSDF27 粒剤 ウニコザールP:0.004% (N-P-K:27-10-7) 〔住友化学〕	[適用性] 側条施肥による倒伏軽減効果および薬害の検討	実・継	使用基準 倒伏軽減 全面施用、土壌混和 耕起～代掻き時 22.5～30kg/10a	側条施肥による効果の確認

〈登熟向上〉

1	NGR-072 粒剤 イソプロチオラン:12.0% 既知化合物:1.5% 〔日本農薬〕	[適用性] 登熟向上の確認	継		年次変動による効果の確認 処理時期と効果について
---	--	------------------	---	--	-----------------------------